

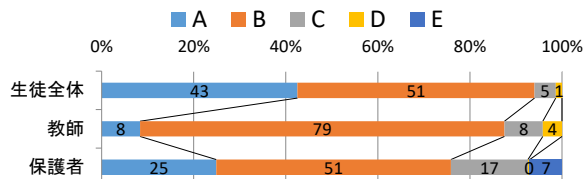
平成 30 年度 日進北中学校 学校診断アンケートの結果①【生徒、教師、保護者】

<回答数> 生徒:369名 教師:24名 保護者:257名

A: よくあてはまる B: どちらかと言えば、あてはまる
C: どちらかと言えば、あてはまらない D: あてはまらない
E: 分からない、どちらとも言えない(無回答)

① 進んであいさつをしている。 (%)

	A	B	C	D	E
生徒全体	43	51	5	1	
教師	8	79	8	4	
保護者	25	51	17	0	7

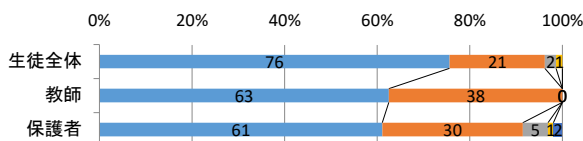


【考察】

・生徒のAB回答率は、昨年度の90%から94%と伸びており、自覚が高まっていると思われるが、教師や保護者の評価は例年通り顕著な相違が見られる。見知らぬ人への挨拶は別として、安心安全な学校内やご近所さんには進んで挨拶できる習慣がつくとよい。そのためにも、我々教員が自然体で挨拶を交わすお手本を見せていきたい。「挨拶はさせるものではなくするもの」というコンセプトを持ちたい。「挨拶をすると気持ち良い」と答える生徒が多い。子どもたちのアイデアを生かした自主的自発的な啓発活動を推進する。

② 体育祭や文化祭など、行事を楽しんでいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	76	21	2	1	
教師	63	38	0	0	
保護者	61	30	5	1	2

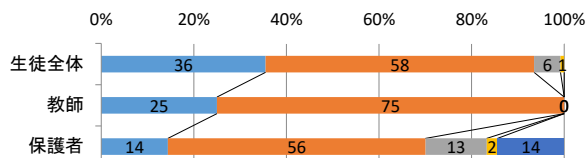


【考察】

・A回答が3者とも60%を超えたことは素晴らしい。1学期の校外学習で良好な集団関係を築き、体育祭や合唱コンクールで団結する楽しさが味わえたと思う。体育祭では、縦割り応援や全員参加型競技の導入やゆりのき学級参加への配慮が有効であった。合唱コンクールや他の活動においても、上級生が手本となっていることが学校全体の活動により影響を及ぼしている。今後も各種行事にさらなる改良を加え発展させていきたい。

③ 授業は、学びやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	36	58	6	1	
教師	25	75	0	0	
保護者	14	56	13	2	14

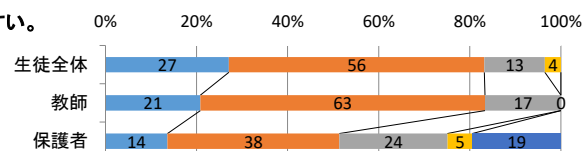


【考察】

・生徒が落ち着いているので、授業妨害やエスケープの心配がいらぬのはありがたいことである。そういう点では、今の北中は「授業が教えやすい」学校といえる。
・「授業は学びやすい」と答えている生徒が94%に達しているのはありがたいが、「授業のスピードについていけない」「難しくて面白くない」と感じている生徒への目配りを怠ってはいけぬ。知識の詰め込み陥らず、学ぶことの楽しさをどう味わわせるか、アクティブラーニングの研究を進めたい。子どもが「今日も楽しい授業だった」と感じれば、保護者のAB回答率も向上するはずである。

④ 授業で分からないことについて、先生に質問しやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	27	56	13	4	
教師	21	63	17	0	
保護者	14	38	24	5	19

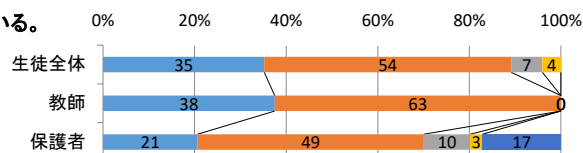


【考察】

・生徒のAB回答率が、昨年の78%から83%に上昇した。各学年が部活動の無いテスト週間に行っている「授業後自主学習」の成果が表れたものかもしれない。教師が近くにいる、プレッシャーもかけられず、友達と気安く質問できる環境があった。今後もこのような場を定着させ、参加生徒が増員することで、日常的にも気楽に先生に質問できる風土を作りたい。
・一方、教員に余裕がないという事実をどう解消していくか、難しい問題がある。部活動があり、授業以外の校務分掌によるイベントもたくさんある。全ての教員が全ての項目に同じようにマックスで取り組むのは無理である。教員の得意分野が生かされ、それぞれの立場で力を発揮することで子どもたちの環境が充実するのが理想である。それもバランスよく。役割分担、補い合えるチームを作り、生徒をサポートしていきたい。

⑤ 学校には、自分の気持ちをわかってくれる先生がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	35	54	7	4	
教師	38	63	0	0	
保護者	21	49	10	3	17

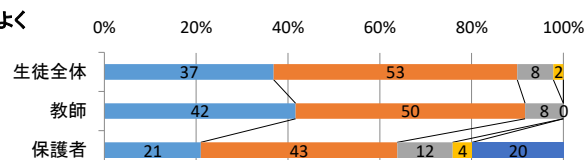


【考察】

・教員が子どもの気持ちをわかろうとして努力するのは当たり前のことであり、近年教育相談活動も充実してきていると感じている。しかし11%の子どもたちが不満を持っている事実をしっかりと受け止めて、子どもに寄り添う姿勢を確認していきたい。
 ・声や態度に不満や不安を表す子どもは対処しやすい。しかし、近年の子どもたちは親や教師の期待に応えようとして「よい子」を演じて、声や態度を押し殺している子が増えているか。日常の観察、会話、教育相談で小さな不安も温かく受け止めることができるよう、我々教員も成長していかなければならない。
 ・保護者のAB回答率は、54⇒68⇒70%と、この3年間微弱ではあるが上昇してきている。

⑥ 先生たちは、自分たちが困っていることについて、よく取り組んでくれる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	37	53	8	2	
教師	42	50	8	0	
保護者	21	43	12	4	20

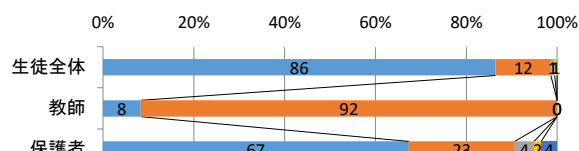


【考察】

・生徒のAB回答率が90%であり、概ね満足できる。今後も、報告、連絡、相談を大切に、教師が一人で問題を抱え込むことなく、学年や学校全体で組織として素早く対応できる力を伸ばしていきたい。
 ・保護者にとっては、項目⑤よりさらに見えにくい設問と思われる。学年通信、学校だより、HP等を活用し、学校の情報を積極的に公開していき、理解を得たい。

⑦ 学校に仲の良い友達がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	86	12	1	1	
教師	8	92	0	0	
保護者	67	23	4	2	4



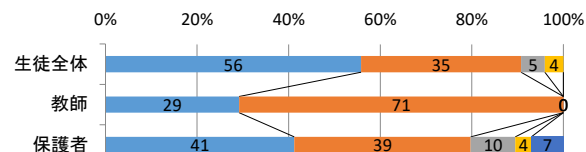
【考察】

・3者の回答率は昨年と同じ傾向が表れた。生徒、保護者のA・B回答率が極めて高い点は満足できる。
 ・教師は、友人関係の重要性に目を向け、慎重に回答している様子が見られる。表面的な友人関係ではなく、真の友人とはどのようなのかを考えさせ構築できる力を身に付けさせるとともに、孤立傾向にある生徒をもちろん把握し、支援していきたい。

⑧ 学校へ行くのが楽しい。

(%)

	A	B	C	D	E
生徒全体	56	35	5	4	
教師	29	71	0	0	
保護者	41	39	10	4	7

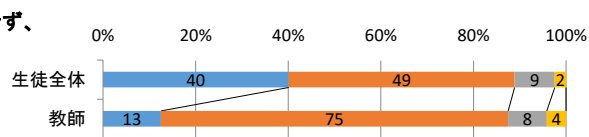


【考察】

・生徒のA・B回答率が91%を示したことは概ね満足できるが、そうでないCD回答9パーセントの存在に目を向けなければならない。保護者のCD回答率14%も見逃せない。一人の不安、不満がやがて全体の不安、不満に発展することがある。今後も「子どもが行きたい学校」「保護者が行かせたい学校」を目指して邁進していきたい。
 ・一部生徒は心を閉ざしていることや、生徒の心の状態は毎日変化していることを忘れずに生徒指導に取り組んでいきたい。

⑨ 委員会や実行委員、有志の活動など、人任せにせず、みんなのためになることを進んで行っている。

	A	B	C	D
生徒全体	40	49	9	2
教師	13	75	8	4

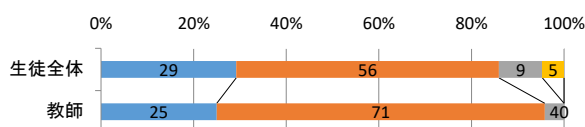


【考察】

・AB回答率の3年間推移を見ると、生徒(84⇒78⇒89)%、教師(96⇒73⇒88)%と昨年度より挽回している。CD回答率から言うと、生徒(16⇒23⇒11)%、教師(4⇒27⇒12)%と、挽回の様子が見られる。これは、生徒の活躍の場が広められてきた結果がもたらしたものと考えられる。体育祭縦割り応援の導入で多くの3年生が活躍し自己有用感が持てた。様々なボランティア活動や小イベントも定着してきている。今後もアイデアを捻出し、気軽に楽しみながら人の役に立つ場を作っていけるとよい。
 ・一部生徒のコメントには、自分に自信がなく消極的になっている様子が見受けられる。自尊感情や自己有用感が低い生徒の存在も明らかであり、支援を要する。生徒の背中をそっと押すことで、成功体験を積み重ね改善していけるとよい。

⑩ 自分は学校で認められていると思う。

	A	B	C	D
生徒全体	29	56	9	5
教師	25	71	4	0



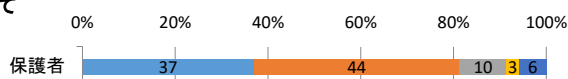
【考察】

・項目⑨とも関連があるが、生徒のA回答率が29%（昨年度19%）と大きく伸びた。C・D回答率も14%（昨年度21%）と下がってきたことはよい。活躍の場を多様化し設定する働きを継続していきたい。
 ・依然として、「忘れ物が多い、勉強の不出来、挙手の回数、部活動、表彰、学級役員、…」といった限られた狭い範囲で自己評価し劣等感を持つ子どもが存在し残念である。しかし、その評価基準は、教師や保護者、社会が子どもたちに植え付けているといつてよいので、我々の反省材料としたい。
 ・どの生徒もそれぞれの得意分野があり、努力を積み重ねている面がある。登校し教室で笑顔を見せるだけでも場を和ませている。我々教師は、今後も生徒の存在そのものを認め励まし自信を持たせていきたい。あえて目立たない生徒に目を向けて、大切な存在であることを認めて伝え、自己有用感を高めさせるという視点も持たなければならない。

⑪保護者

学校は子どもたちの活動の様子を積極的に伝えようとしている。

	A	B	C	D	E
保護者	37	44	10	3	6



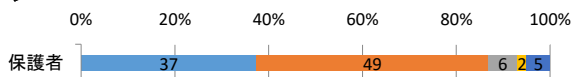
【考察】

・本年も、A・B回答率が81%で概ね満足できる。学年通信や諸便り、HPIによる情報公開に加え、PTA活動の充実や日常の保護者との連絡や会話の充実が図られている成果と考える。
 ・保護者が学校へ足を運ぶ機会が少ない。今後も事実に基づく積極的な情報公開を進め、学校理解を深めてもらえるように努めていきたい。
 ・せっかく配布したプリントが親に届かないという声をよく聞く。学校からも子供への働きかけを進めていきたい。

⑫保護者

学校が保護者に出す文書（たより、連絡等）やホームページの内容は分かりやすい。

	A	B	C	D	E
保護者	37	49	6	2	5



【考察】

・学年通信、学校だよりをはじめとした各種便りの内容が、子どもの様子や伝えたいこと、保護者が知りたいことを的確に表す努力をしていく。保護者の声から、行事予定をお知らせすることの重要性がうかがえる。正確な情報をできるだけ早くお知らせできるように努めていきたい。
 ・HPもアクセス数が増え、感想をいただくことも増えてきた。今後も、日常の生徒の活動場面（教育活動）の自然な姿を伝えていきたい。

文責 校長 渡邊宏

